

日本の人々は
自然をどう捉えてきたのか

山村に暮らす哲人

内山節講演会

期日 11月28日(火) 18時開場
18時30分開始

会場 さわや書店 ORIORI (フェザン本館)
3F

★ 入場無料 ★

うちまからし

内山節プロフィール (『内山節著作集(全5巻)』(農文協)紹介PDFより引用)

1950年東京生まれ。哲学者。『労働過程論ノート』(1976年田畑書店)で哲学評論会に登場。1970年代から東京と群馬県上野村を往復して暮らす。趣味の釣りを通じて、川・山と村、そこでの労働のあり方についての論考を展開。『山里の釣りから』(1980年日本経済評論社)に平明な文体で結実する。そこでの自然哲学や時間論、森と人間の営みの考察が『自然と人間の哲学』(岩波書店)『時間についての十二章』(岩波書店)『森にかよふ道』(新潮社)などで展開された。NPO法人森づくりフォーラム代表理事。『かがり火』編集長。『東北農家の会』『九州農家の会』などで講師を務める。2010年4月より、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授。